



きらめく風

ホームページ

携帯サイト →



すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

喜怒哀楽の経験

校長 清水 誠

青森県東方沖地震が起こったのは、ちょうど1か月前のことでした。東日本大震災からもうすぐ15年が経とうとしています。多くの人々にとって、あの未曾有の震災の記憶は消えるものではないのに、どこか遠くに行ってしまった感がありました。そのような中、青森県八戸市で起きた震度6強の地震は、津波に対する恐怖が一気に蘇ってきました。

現在は十分な配慮の下、わずかに津波の映像が流れる程度ですが、当時ほどのニュース番組でも衝撃的なシーンの連続でした。誰もが今の日本で起きていることではない、映画のセットで撮影されたのではないかと思うぐらいのショックを津波の映像から感じたものです。東日本大震災は、東京でも激しく揺れ、さらには原発の事故が重なり、多方面に影響が続きました。しかし、私にとって最も忘れることができないのは、震災4年後に行われた政府主催の追悼式での菅原彩加（さやか）さんの言葉でした。

石巻市出身の菅原彩加さんは、宮城県の遺族代表としてスピーチを行いました。ちょうど中学校で卒業式があった日のことだったといいます。家に帰ると大きな地震が起き、逃げようとした時には、すでに地鳴りのような音と共に津波が一瞬にして家族5人を飲み込んでいきました。しばらく津波に流された後、彩加さんは運良く瓦礫の山の上に流れ着きました。その時、足下から名前を呼ぶ声が聞こえ、かき分けて見てみると、釘や木が刺さり足は折れ、変わり果てた母の姿が見えました。右足が挟まって抜けず、瓦礫をよけようとがんばったものの、一人ではどうにもならないほどの重さでした。「行かないで…」という母に、彩加さんは「ありがとう、大好きだよ」と伝え、近くにあった小学校へと泳いで渡り一夜を明かしたといいます。さらにスピーチの後半では、「前向きに生きることが、亡くなった家族への恩返し」と述べ、これからの人生を力強く生きていくことを誓いました。

当時、このスピーチの内容は、大きな反響を呼びました。当然のことながら、「なぜ瀕死の母親を見捨てたのだ」という批判もSNSを通じて見られました。しかし、一刻を争う緊急事態に、瞬時に自分の命を守るという正しい判断ができたにとらえるべきです。自分の命を顧みず、人の命を救うことが美談として取り上げられてはいけません。さらに私が感銘を受けたのは、当時15歳の少女がどうしてこのような判断ができたのかということでした。

彩加さんが、どのような家庭で育ったのかは分かりません。しかし、学校や家庭・地域の教育の中で培われた力が、とっさの行動につながったのは明らかです。友達と協力した学校行事の取り組み、試合で勝って喜び、負けて悔しい思いをした経験、うそをついて親から激しく叱られた経験、あるいは親戚の人が亡くなり、家族で葬儀に参列した経験…喜怒哀楽のある日常を一つ一つ経験していくことが、人の成長には欠かせません。新年を迎え、新たに学校生活が始まりました。今年も日々の指導を充実させ、子ども達に多くの経験を積ませていきます。

～子ども達の～

3年 警察・消防署見学（12/3）

社会「安全な暮らしを守る」の学習で、「人々の安全を守るためにどのような工夫をしているのだろう」という課題をもって光が丘警察署と光が丘消防署の見学に行きました。警察署では、全員がパトカーの運転席に座らせていただき、自家用車にはないサイレンや無線機、警棒などの装備を発見して驚いていました。消防署では、火事が起きたときの出動の様子を本番と同じ動きで見せていただきました。消防服を着て消防車に乗り込み出発するまで40秒。そのてきぱきとした動きときびきびとした掛け声に圧倒され「かっこいい。」と見とれていました。どちらの施設でも「なぜその職業についたのか」という質問で、「人の役に立ちたい、困っている人を助けたい」という熱い思いを語っていただきました。崇高な使命感と責任感をもって仕事に取り組んでいることがわかり、日々、私たちの生活を守ってくださっている方々に感謝の気持ちでいっぱいになりました。



展覧会（12/4～6）

12月4日から6日に行われた3日間の展覧会では、体育館に子ども達の創造性が詰まった作品がずらりと並びました。

児童鑑賞では、互いの表現のよさや工夫を見つけて伝え合う姿が印象的でした。今年は新しい試みとして、高学年の「子どもガイド」や、全校制作の通路展示、共同作品の触れる展示を実施しました。作品を介して、子ども同士や保護者の皆様との交流が温かく広がりました。

また、教職員も夏に研修した陶芸作品を展示しました。創作の難しさや楽しさ、表現に向き合う児童の気持ちをより深く理解するための取り組みです。身近な先生たちの作品を見つけて、子ども達も喜んでいました。

自他の作品を認め合い、対話が生まれた展覧会となりました。この経験を通して得た「発見」を糧に、子ども達がさらに自分のよさを伸ばしていくことを願っています。



5年 社会科見学（12/11）

社会科「情報を伝える人々とわたしたち」の学習に関連して、埼玉県川口市にあるSKIPシティへ行ってきました。

「くらしプラザ」では、消費生活をテーマにしたゲームやすごろくなどの体験学習を通して、お金の使い方や、詐欺被害への対策を学びました。

「映像ミュージアム」では、映像制作のひみつが分かる様々なコーナーを回りました。空飛ぶジュウタンのコーナーでは、クロマキー合成の面白さを味わうことができました。ジュウタンに乗って恐竜の世界を旅する映像を作りました。ニュース番組の収録体験では、一発勝負の本番の緊張感の中、キャスター、カメラマン、ディレクター、音響など、それぞれ担当した役割をしっかりと果たして短いニュース番組が完成しました。

身近なニュース番組の裏側では、多くの人が協力して番組制作に携わっていることが実感できました。今回の社会科見学ならではの学びを生かして、情報の学習を進めていきます。



学校生活



3年しょうゆ博士の出前授業 (12/12)

総合的な学習の時間「ダイズ大作戦」、国語「すがたをかえる大豆」の学習の一環として、日本醤油協会のしょうゆもの知り博士をお招きしました。まずは醤油の香り体験。熱した醤油の香りから、300種類以上の成分でできていることを知りました。次に醤油の原料とつくり方。大豆、小麦、塩を原料にして麹菌を使って醤油ができる過程を学びました。さらに、諸味→生醤油→製品の醤油の変化を味見を通して体験させていただきました。製品の醤油になるまでに6か月から1年の発酵が必要なことを知り、長い時間と手間をかけてつくられていることを学びました。子ども達は、「諸味がおしかった。」「醤油の色は赤なんだ。」「こんなに手間がかかるんだ。」「醤油の秘密を知れたので、家族にも教えたい。」と、初めて知ったことを誰かに伝えたいと振り返りに書いていました。



科学クラブ出前実験教室(12/11・22)

17日に、ディレクトフォースの方々に「音の正体」をテーマに授業をしていただきました。音叉を鳴らして、塩が乗っている紙皿に近付ける活動などを通して、音の正体は振動であることが分かりました。学習のまとめとして糸電話を作り、音の振動がエナメル線を伝わっていくことがよく分かりました。

22日には、中里郷土の森の方にお越しいただき、野鳥についての出前授業をしていただきました。今回は双眼鏡の使い方を学習するとともに、実際に上練馬公園で野鳥観察をしました。鳥の鳴き声は聞こえても、なかなか野鳥は見つかりません。目を凝らして待っていると、やっと次々と野鳥が現れてくれました。シジュウカラ、ヒヨドリ、カラス、そしてなんとツミ（絶滅危惧Ⅱ類に指定されているタカの仲間）も観察することができました。珍しい野鳥も観察できて、大喜びの子ども達でした。



笑顔と学びのプロジェクト (12/23)

今年度は、町から町へと幸せのタネをまく旅に出た愉快なご夫婦「笑太夢（ショウタイム）マジック」が来校しました。題して、【魔法の冒険「いつも心に花束を」マジックマイム劇】です。

大きな3枚のトランプが一瞬にして入れ替わったり、空中浮遊を試みたりと、目の前で起こる不思議なマジックに、「え～！なんで？」「わぁ～！！」「おお～！！」と歓声があがりました。ワークショップでは、全校みんなでパントマイムの練習をした後、代表10名が舞台上がってその成果を披露。会場が一体感に包まれました。

「これからの人生、辛いことや悩みがあっても、今日、希望のタネを植えたから大丈夫。自分にしか咲かせられない花を咲かせてね。」との最後の言葉は、私たち教員や保護者にとっても大切なメッセージとして受け取ることができました。これからも、子ども達が自分のよさを見つけ、伸び伸びと成長していけるように尽力してまいります。



< 1月の行事予定 >

1月の安全指導内容「身の回りの危険について考えよう」

日	曜	相	行 事
1	木		機械警備
2	金		機械警備
3	土		
4	日		※3学期は、予告なしで避難訓練を実施します。
5	月		
6	火		
7	水		冬季休業日終
8	木		3学期始業式 全学年4時間授業 安全指導 給食始 書き初め週間（～13日）
9	金		読 あいさつ運動①
10	土		
11	日		
12	月		成人の日
13	火		読 あいさつ運動②豊溪中学校来校日 1・2年計測 地域未来塾
14	水		学 あいさつ運動③ 3・4年計測 6校時クラブ活動（3年クラブ見学）
15	木	◇	児 5・6年計測
16	金	◆	読 3年社会科見学
17	土		
18	日		
19	月	◆	全 水曜日時程5時間授業 5・6年保護者会 校内書き初め展（～30日まで）
20	火		特別時程4時間授業 2年2組校内研究授業
21	水		学 5時間授業 1・2年保護者会
22	木	◇	体 たてわり班遊び（中休み） 5年方言出前授業 1年むかし遊び出前授業
23	金	◆	図書ボランティア読み聞かせ 水曜日時程 3・4年保護者会 6年キャリア教育出前授業
24	土		連合図工展（～28日まで）
25	日		
26	月		全 なわとび週間（～30日まで）
27	火		読 6年社会科見学 地域未来塾
28	水		学 5校時委員会
29	木	◇	音
30	金	◆	特別時程（会議のため）
31	土		連合書き初め展

《校内書き初め展》

年が明け、書き初めの時期となりました。書き初めには、「一年間の抱負や目標を定める」ことの他にも「字の上達を祈願する」という意味もあるそうです。1・2年生は硬筆、3年生以上は毛筆で、新年の新鮮な気持ちで思いを込めて白い紙に向かいます。

■ 期間：1 / 19(月)～1 / 30(金)

■ 展示場所：各教室の廊下

■ 時間：15:30～16:30
（土日の公開はありません）

ご自分のお子様の学年だけでなく、他学年の児童の作品もご覧ください。

《練馬区小学校連合図画工作作品展》

練馬区小学校連合図画工作作品展を石神井公園区民交流センターで開催します。感性を発揮して、豊かに表現された作品をどうぞご覧ください。

■ 会場：石神井公園区民交流センター
展示室兼集会室

※練馬区立美術館改修工事の為

■ 会期：1月24日(土)～28日(水)

■ 時間：9:00～16:45

（※土日は10:00～18:00）

最終日1月28日(水)は9:00～12:00

《なわとび旬間》

なわとび旬間は、中休みを使ってなわとびに取り組みます。様々な技に挑戦し、できる技や跳ぶ回数を増やしていきます。跳び方は数多くあり、旭町小のなわとびカードには20種類が紹介されています。体育の学習でもなわとびを取り入れていく予定です。寒さに負けず、元気に運動する習慣を身に付けていくように声を掛けていきます。

1月の生活目標

〈れいぎ正しくしよう〉

礼儀正しくするとは、相手を大切にすることです。

あいさつや返事などの言葉遣いはもちろん、服装や態度などがきちんと整っているとどんな気持ちになるか子供たちに考えさせ、新しい1年を清々しい気持ちでスタートさせたいと思います。

全 全校朝会 音 音楽朝会 児 児童集会 体 体育朝会 学 朝学習 読 朝読書

◆ 心のふれあい相談員

◇ スクールカウンセラー

* 行事予定は変更になる場合があります。学年だより等でご確認ください。